

慢性の痛み患者への就労支援の推進に資する研究

○橘 とも子（国立保健医療科学院・保健医療情報政策研究センター
特任研究員）, 中島 孝（国立病院機構新潟病院）, 丸谷 美紀（国立保
健医療科学院・生涯健康研究部）, 高井 ゆかり（群馬県立県民健康科学
大学・看護学部）, 鈴木 恵理（群馬県立県民健康科学大学・看護学部）,
湯川 慶子（国立保健医療科学院・疫学・統計研究部）, 松繁 卓哉（国立
保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部）

COI

私が発表する今回の演題について開示すべきCOIは以下のとおりです。

（国立保健医療科学院）

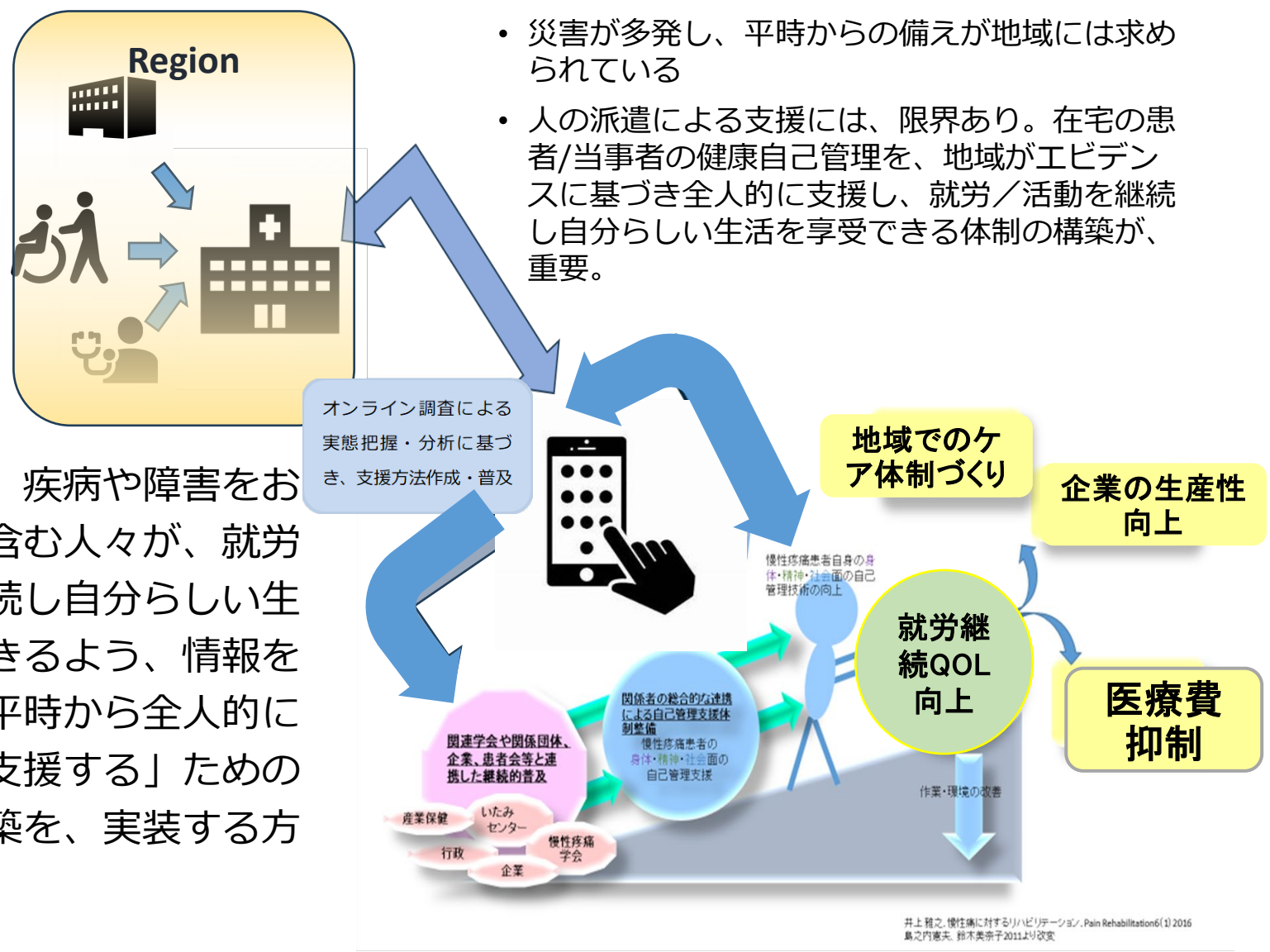
- ・ 医学研究助成：令和2-3年度公益財団法人大樹生命厚生財団第52回
- ・ 研究助成金：令和3-6年度文部科学省（21K10295）
- ・ 研究事業補助金：令和4-5年度厚生労働省（22FG1001）



目的

- 本研究では、疾病や障害をお持ちの方を含む人々が、就労や活動を継続し自分らしい生活を享受できるよう、情報を通じて、「平時から全人的に自己管理を支援する」ための社会体制構築を、実装する方法を探る。

- 様々な健康課題や不調を抱えて長生きする人々への対策は、世界的な課題
- 災害が多発し、平時からの備えが地域には求められている
- 人の派遣による支援には、限界あり。在宅の患者/当事者の健康自己管理を、地域がエビデンスに基づき全人的に支援し、就労/活動を継続し自分らしい生活を享受できる体制の構築が、重要。



井上 雅之、慢性痛に対するリハビリテーション、Pain Rehabilitation 6 (1) 2016
島之内 憲夫、鈴木美奈子 2011より改変



方法 【調査】

- ・ 調査目的：「慢性の痛みを持つ方が就労を継続できるようセルフマネジメント支援する方法を作成」するため、実態を明らかにするため。患者当事者等の、慢性の痛みや就労に関する係る「患者さんの気持ち」「患者さんへのアプローチ」「予め目的項目を明記した、医療サービスの内容」などを把握し、政策課題の役に立つ解析を行うため。
- ・ 調査対象：研究分担者経由で調査への協力同意を得た、18歳以上からの病院利用者(患者・家族・医療スタッフ、等)。
- ・ 方法：プレ調査で作成したアンケートサイトに回答データが格納されるよう、パーソナルヘルスレコード（PHR）活用によるWeb実態把握調査（プレ調査・本調査）実施体系を整えるとともに、協力医療機関で実証されているHL7 FHIR規格の電子健康記録(HER) に連結できる方策を作成した。対象者が自分のモバイルデバイスでアンケートサイトの質問票に匿名回答同意し、電子健康記録の予め明記された自分の医療データの目的項目に連結同意することで、患者報告アウトカム尺度(PROMs)に資する具体策等が検証できるWeb実態調査を実施。
- ・ 研究倫理審査： 国立保健医療科学院研究倫理審査委員会多機関共同研究一括倫理審査承認

(承認番号：NIPH-IBRA#12357, NIPH-IBRA#12400, NIPH-IBRA#23014) 。



方法 【就労支援】

- 目的：慢性の痛みを持つ方のセルフマネジメント支援ができるよう、パーソナルウェルビーイングの先進社会を目指して普及啓発を行う
- 慢性の痛みを持つ方へのセルフマネジメント就労支援のための文献調査、海外先行事例調査、研究班主催講演「パーソナルウェルビーイングの先進社会を目指して」を開催しハイブリッド方式ならびにオンデマンド方式で配信するとともに、編集作成した「講演まとめ冊子」を、保健所や地方衛生研究所等に配布した。

日程:令和5年2月26日(日)11:00-13:00

会場:丸ノ内ホテル多目的貸会議室 及びオンラインでのハイブリッド開催

プログラム

11:00-11:15

研究説明(橘とも子)

11:15-12:00

講演Ⅰ「PHRを活用した健康づくり」

12:00-13:00

講演Ⅱ「痛みのセルフマネジメント」

※講演Ⅰ・Ⅱは、後日(令和5年3月31日まで)オンデマンド配信

図3: 講演「パーソナルウェルビーイングの先進社会を目指して」の概要及びプログラム

- 聞き取り調査：成果は別途、本研究会の他演題「疾病や障害により慢性的な痛みを持つ患者への就労支援の推進に資する研究―患者への聞き取り調査より」にて詳細を報告する。



結果【就労支援】

配布先	件数	配布冊数
NPO	1	5
地方衛生研究所	83	166
保健所	468	936
科学院関係者	3	50
手渡し配布	1	12
保健医療情報政策研究センター	1	2
研究分担協力者	13	520
研究代表者	1	250
TOTAL		1,941

第32回本会の
演題「疾病や障害により慢性的な痛みを持つ患者への就労支援の
推進に資する研究―患者への聞き取り調査より」参照ください



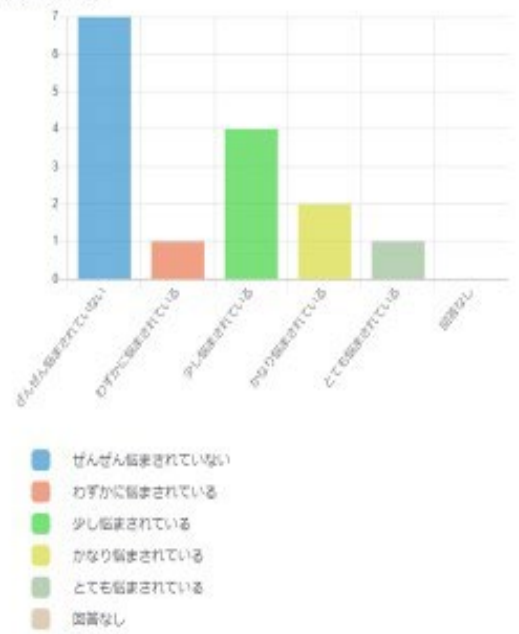
結果【調査】例 1/2

回答ID	回答完了日時	最終 ページ	開始日時	最終行動日時	あなたの 年齢を半 角数字で 入力して ください	2.1 最近1 週間を通 して、以 下の体の 問題につ いて、ど の程度悩 まされて いますか？ [胃腸の 不調]	2.1 最近1 週間を通 して、以 下の体の 問題につ いて、ど の程度悩 まされて いますか？ [背中、 または腰 の痛み]	2.1 最近1 週間を通 して、以 下の体の 問題につ いて、ど の程度悩 まされて いますか？ [腕、 脚、また は関節の 痛み]
1			2023-02-09 14:29:02	2023-02-09 14:29:02				
2	2023-02-10 13:57:51	6	2023-02-10 13:53:17	2023-02-10 13:57:51	52	かなり悩ま	わずかに悩	ぜんぜん悩
3		3	2023-02-10 17:53:55	2023-02-10 18:01:55	72	わずかに悩	わずかに悩	わずかに悩
4		5	2023-02-11 11:16:35	2023-02-11 11:19:50	47	ぜんぜん悩	かなり悩ま	わずかに悩
5			2023-02-14 11:53:13	2023-02-14 11:53:13				
6		1	2023-02-17 12:00:22	2023-02-17 12:00:31	44			
7	2023-02-17 14:17:16	6	2023-02-17 14:14:09	2023-02-17 14:17:16	44	少し悩ま	少し悩ま	少し悩ま
8	2023-02-17 14:21:58	6	2023-02-17 14:14:21	2023-02-17 14:21:58	44	かなり悩ま	かなり悩ま	少し悩ま
9	2023-02-17 18:05:01	6	2023-02-17 17:52:42	2023-02-17 18:05:01	61	ぜんぜん悩	わずかに悩	少し悩ま
10	2023-02-18 10:19:08	6	2023-02-18 10:10:19	2023-02-18 10:19:08	59	ぜんぜん悩	ぜんぜん悩	ぜんぜん悩
11	2023-02-18 15:31:38	6	2023-02-18 15:24:25	2023-02-18 15:31:38	36	とても悩ま	とても悩ま	少し悩ま
12		1	2023-02-18 17:09:31	2023-02-18 17:09:42	52			
13	2023-02-20 11:06:56	6	2023-02-20 10:58:03	2023-02-20 11:06:56	53	少し悩ま	わずかに悩	わずかに悩
14		1	2023-02-20 11:07:37	2023-02-20 11:08:07	56			
15	2023-02-20 15:17:09	6	2023-02-20 15:12:07	2023-02-20 15:17:09	62	ぜんぜん悩	わずかに悩	とても悩ま
16	2023-02-20 15:22:28	6	2023-02-20 15:13:38	2023-02-20 15:22:28	59	少し悩ま	とても悩ま	かなり悩ま
17	2023-02-20 15:32:38	6	2023-02-20 15:28:15	2023-02-20 15:32:38	47	ぜんぜん悩	少し悩ま	ぜんぜん悩
18	2023-02-20 16:30:27	6	2023-02-20 16:24:35	2023-02-20 16:30:27	43	ぜんぜん悩	とても悩ま	とても悩ま
19		1	2023-02-20 16:32:57	2023-02-20 16:33:15	63			
20	2023-02-20 16:41:28	6	2023-02-20 16:33:57	2023-02-20 16:41:28	63	ぜんぜん悩	少し悩ま	少し悩ま
21	2023-02-21 10:38:13	6	2023-02-21 10:35:41	2023-02-21 10:38:13	22	少し悩ま	ぜんぜん悩	ぜんぜん悩

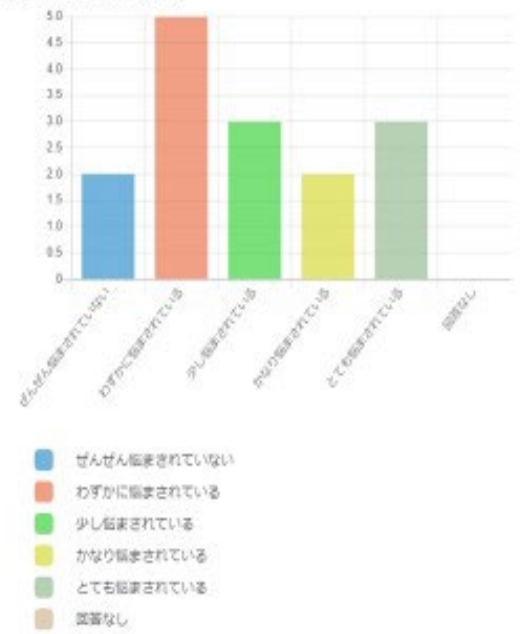
結果【調査】例 2/2

プレ調査 集計結果報告(クロス集計の例)

2.1 最近1週間を通して、以下の体の問題について、どの程度悩まされていますか？
[胃腸の不調]



2.1 最近1週間を通して、以下の体の問題について、どの程度悩まされていますか？
[時中、または腰の痛み]



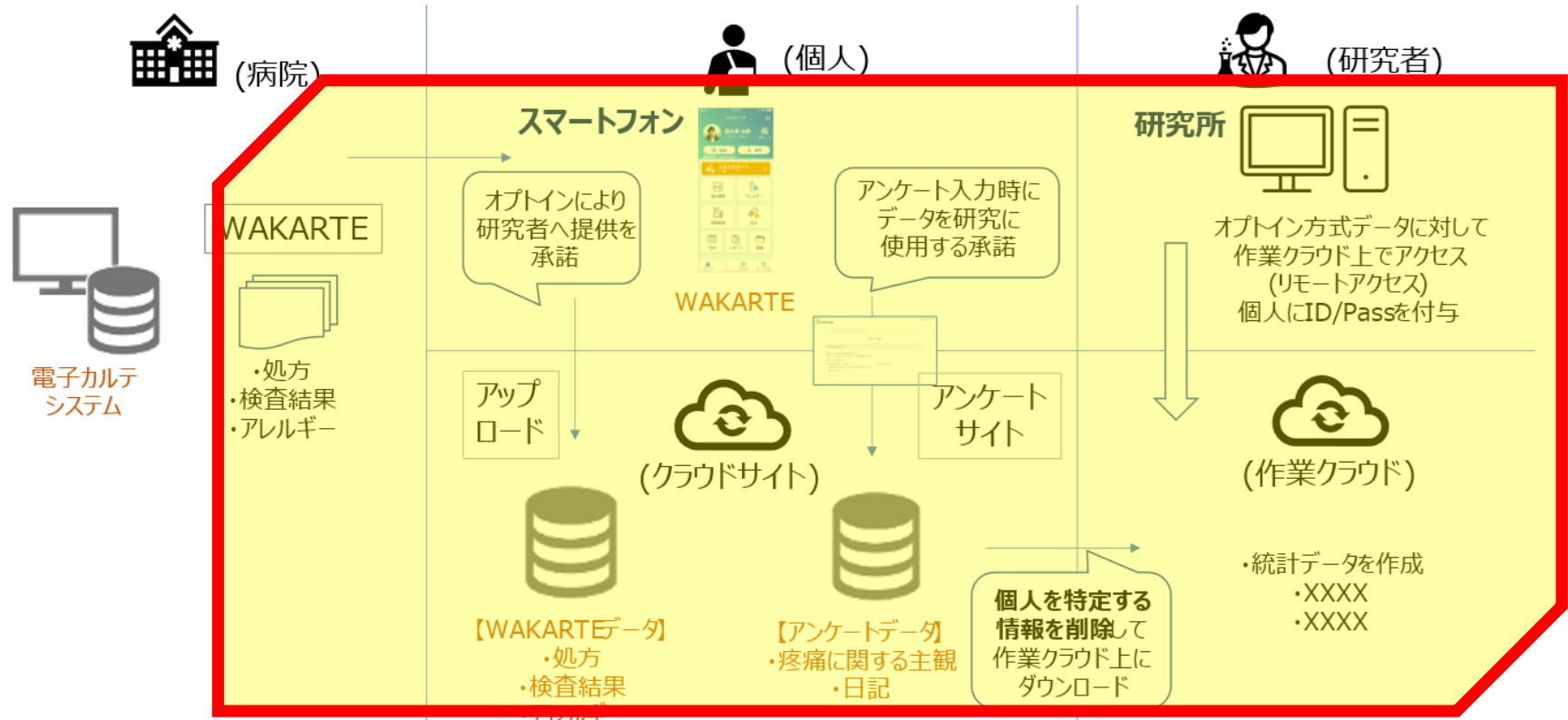
2.1 最近1週間を通して、以下の体の問題について、どの程度悩まされていますか？
[腕、肘、または関節の痛み]



橘とも子_国立保健医療科学院保健医療情報政策研究センター

結果 【調査】

オプトイン方式データの解析方策の検討



科学院アンケートサイトに回答データが格納されるよう、民間医療機関の電子健康記録(EHR; HL7 FHIR規格) を利用し効果的なオンライン実態把握環境を作成した



考察

近年日本では、さまざまな健康状態に苦しむ人々が自らのケアを管理できるよう、社会支援制度の整備に向けた動きが徐々に進んでいる。医療機関での治療法のみには焦点を当てるのではなく、慢性疾患を構成するあらゆる側面を、時代に即して再評価する「見直し」が重要である。未来投資戦略2017以降、厚生労働省には、データヘルス改革推進本部が設置され、2021年「データヘルス改革に関する工程表及び今後の検討について」が策定・推進されている。その目指す目標は、「マイナポータル等を通じて、自身の保健医療情報を把握できるようにするとともに、UI（ユーザーインターフェース）にも優れた仕組みを構築」し、「健診情報やレセプト・処方箋情報、電子カルテ情報、介護情報等を、患者本人はもとより、医療機関や介護事業所でも閲覧し共有可能とする仕組みを整備すること」である。これにより、「国民が生涯にわたり自身の保健医療情報を把握できると共に、医療機関や介護事業所がニーズを踏まえた最適サービスを提供できるよう」主な取り組みの着実な実現が、新社会システムのためにも重要である。



考察 (つづき)

近年、少子高齢化人口減少に伴って多くの人々が、慢性疼痛の症状等、さまざまな傷病の健康課題を抱えながら長生きするようになった。今後のセルフマネジメント支援社会では、生きがいや社会への貢献方策を探る人々を、各々のQOLに応じて支援する為の、持続可能で経済発展にも寄与する情報基盤が求められよう。そのための医療情報管理システムとしてPHRは、分野による切れ目や格差のない患者当事者発の情報共有基盤として、多様な地域に提示しうる国の情報プラットフォームになると思われる。その際、人口構造や社会環境の激変を背景に日本が、先進国の位置づけや質を保ちつつ「プライバシー保護と個人データの国際流通の推進」を進めていくには、OECD(経済協力開発機構)の勧告8原則に従う必要がある。本研究を推進することで「個人参加の原則(自身のデータについて所在・内容等を確認できる)」をはじめとするOECD8原則に沿った情報プラットフォームが必要である。本研究が成果として目指す「セルフマネジメントに基づくケア社会とするための、取組み方法のモデルが、誰もとり残さずに進められる」というメリットや持続可能性の観点からも、ヘルスデータの情報プラットフォームとしてPHRに軸足を置く意義は大きいと思われた。





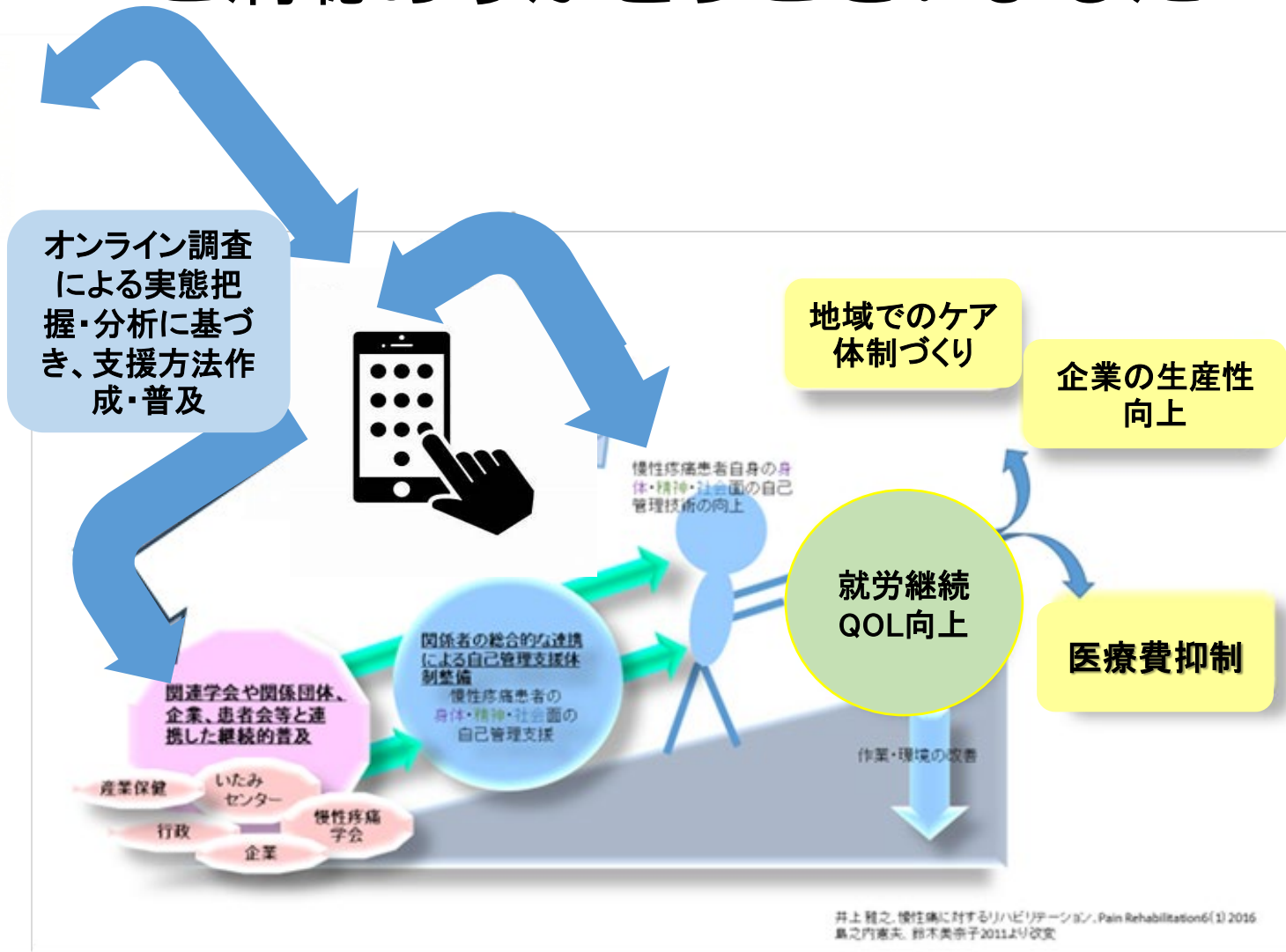
結論

全人的に疼痛自己管理を支える体制を構築するため、
(1)PHR活用促進に必要な実態把握調査方法や、
(2)慢性の痛みを持つ方が就労継続するためのセルフマネジメント支援方法の作成試行・普及を行った。
多様な個人のリスクリングや生きがいを支援できる、活力ある包摂社会体制を成果としてさらに目指す。

謝辞
以下の諸氏(敬称略)による研究分担ならびに研究協力について深謝します。
◆研究分担者：田邊 豊（順天堂大学医学部附属練馬病院・麻酔科・ペインクリニック）, 臼井 千恵（順天堂大学・医学部精神医学講座）, 木村 慎二（新潟大学医歯学総合病院・リハビリテーション科）, 松原 貴子（神戸学院大学・総合リハビリテーション学部）, 牛田 享宏（愛知医科大学・医学部）
◆研究協力者：中村明央（昭和大学総合情報管理センター）, 細井 昌子（九州大学大学院医学研究院・心療内科・集学的痛みセンター）, 安野 広三（九州大学大学院医学研究院・心療内科・集学的痛みセンター）



ご清聴ありがとうございました



井上雅之、慢性痛に対するリハビリテーション、Pain Rehabilitation6(1) 2016
島之内康夫、鈴木美奈子2011より改変

